



# ACCUMULATOR Platinum

アキュムレーター プラチナ

## 2011年度(平成23年度) 特別勘定の現況 (アクサ・アロケーションファンド20/50/80)

### 2011年度(平成23年度)決算のお知らせ

## 投資対象となる投資信託

### アクサ・アロケーションファンド20/50/80

#### 【運用会社】 AXAエキタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー

AXAエキタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー(FMG LLC)は、米国大手の一つである生命保険会社AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーの投資顧問業務を行う部門が同社の完全子会社として発足した会社で、2012年2月より、当商品組入れ投資信託の運用会社となりました。

FMG LLCは資産クラスごとの基本投資配分比率を決定するとともに、資産クラスごとの副運用会社を選定・モニタリングするマネージャーオブマネージャー方式の運用会社です。

※2012年2月1日付で、「AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニー」は組織再編を行いました。この一環として、投資顧問部門であった「ファンド・マネジメント・グループ」が新たに同社の完全子会社「AXAエキタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー」として設立され、これに伴う運用会社の変更を行いました。尚、投資信託の運用内容、運用方針等に変更はございません。

- ・アクサ生命保険株式会社の「ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約当日積立金額・遡増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うこととなります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することとなります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

# ACCUMULATOR Platinum アクキュレータープラチナ

## 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクキュレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド20)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド20
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド20
投資信託の運用会社	AXAエキタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドである「アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド」(以下「アクサ・コンサバティブ・ファンド」と言います)に100%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行ないます。マザーファンドの基本投資配分比率は、米国株式20%、米国債券80%とします。主なリスクとして、株式の価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	株式部分(割合20%) : S&P500 インデックス 債券部分(割合80%) : パークレイズ米国総合インデックス

\*当ファンドが100%投資するマザーファンドである「アクサ・コンサバティブ・ファンド」のベンチマークです。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド20)の投資状況 [2012年3月31日現在]

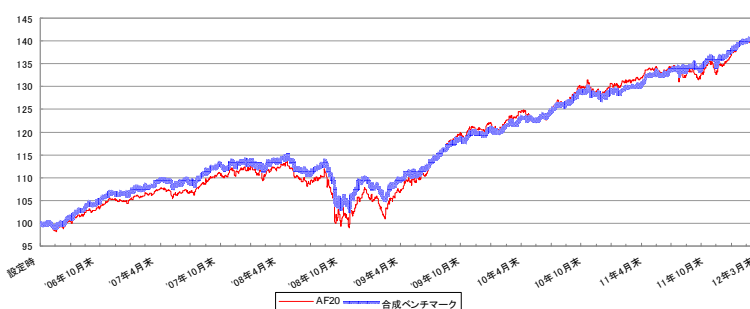
投資状況	
	時価合計(米ドル)
投資信託受益証券	81,171,256.27
合計(純資産総額)	81,171,256.27

運用資産		
銘柄	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド	81,171,256.27	100.00

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	81,171,256.27
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I-II)(米ドル)	81,171,256.27
IV. 発行済口数(ユニット口数)	5,783,487.155

### ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.5.12)を100として指数化しております。



ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
14.0352 米ドル	14.0245 米ドル

ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
0.08%	6.55%	40.35%

\*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10.0000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。

\*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。

\*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。

\*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド20(ベビーファンド)」が100%投資する「アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスへ20%とパークレイズ米国総合インデックスへ80%投資したと仮定して計算しています。

# ACCUMULATOR Platinum アクキュレータープラチナ

## 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクキュレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド50
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド50
投資信託の運用会社	AXAエクイタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドである「アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド」(以下「アクサ・モデレート・ファンド」と言います)に100%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行ないます。マザーファンドの基本投資配分比率は、米国株式50%、米国債券50%とします。主なリスクとして、株式の価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	株式部分(割合50%) : S&P500 インデックス 債券部分(割合50%) : パークレイズ米国総合インデックス

\*当ファンドが100%投資するマザーファンドである「アクサ・モデレート・ファンド」のベンチマークです。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の投資状況 [2012年3月31日現在]

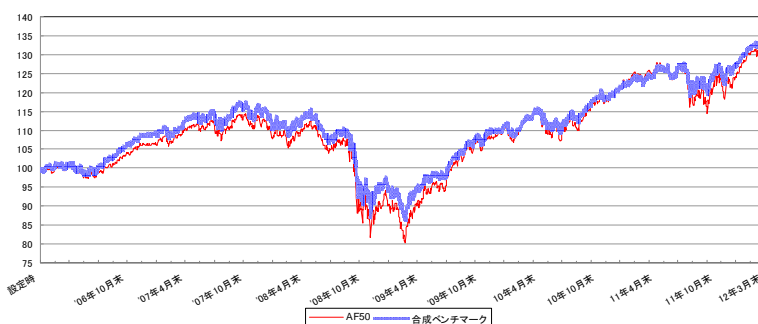
投資状況	
	時価合計(米ドル)
投資信託受益証券	480,449,824.37
合計(純資産総額)	480,449,824.37

運用資産		
銘柄	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド	480,449,824.37	100.00

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	480,449,824.37
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I-II)(米ドル)	480,449,824.37
IV. 発行済口数(ユニット口数)	36,197,531.696

### ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.2.1)を100として指数化しております。



ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
13.2730 米ドル	13.1488 米ドル

ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
0.94%	5.84%	32.73%

\*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10.0000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。

\*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。

\*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。

\*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド50(ベビーファンド)」が100%投資する「アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスとパークレイズ米国総合インデックスへ50%ずつ投資したと仮定して計算しています。

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレータープラチナ

## 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アキュムレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド80)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド80
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド80
投資信託の運用会社	AXAエクイタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドであるアクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド(以下「アクサ・モデルート・ファンド」と言います)に25%、アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド(以下「アクサ・アグレッシブ・ファンド」と言います)に75%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。投資対象となる投資信託は、主に米国株式68.75%、国際株式11.25%、米国債券20%に投資します。主なリスクとして、株式の価格変動リスク、為替リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	「アクサ・モデルート・ファンド」 株式部分(割合50%)：S&P500 インデックス 債券部分(割合50%)：パークレイズ米国総合インデックス 「アクサ・アグレッシブ・ファンド」 株式部分(割合90%)：S&P500 インデックス、MSCI EAFE インデックス 債券部分(割合10%)：パークレイズ米国総合インデックス

\*当ファンドが25%投資するマザーファンドである「アクサ・モデルート・ファンド」と75%投資するマザーファンドである「アクサ・アグレッシブ・ファンド」のベンチマークです。

### 特別勘定(アクサ・アロケーションファンド80)の投資状況 [2012年3月31日現在]

投資状況	
	時価合計(米ドル)
投資信託受益証券	64,413,791.41
合計(純資産総額)	64,413,791.41

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	64,413,791.41
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I-II)(米ドル)	64,413,791.41
IV. 発行済口数(ユニット口数)	5,420,030.617

ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
11.8844 米ドル	11.7260 米ドル

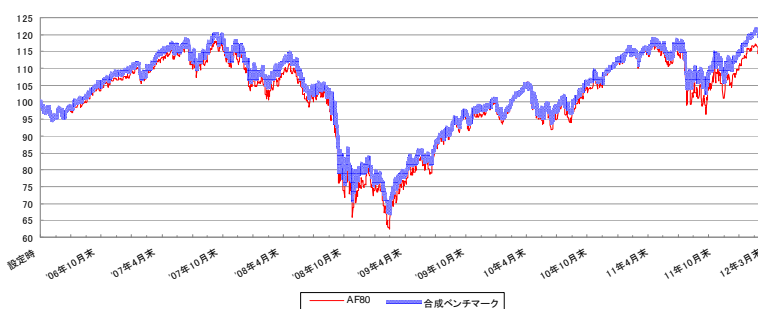
ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
1.35%	3.00%	18.84%

- \*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10.0000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。
- \*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。
- \*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。
- \*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド80(ベビーファンド)」が25%投資する「アクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」75%投資する「アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスへ68.75%、MSCI EAFEへ11.25%、およびパークレイズ米国総合インデックスへ20%投資したと仮定して計算しています。

運用資産		
銘柄	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
アクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド	17,588,360.53	27.31
アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド	46,825,430.88	72.69

### ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.5.12)を100として指数化しております。



# ACCUMULATOR Platinum アキュムレータープラチナ 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アキュムレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライブ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## 市場コメント

### <マーケット概況>

2011年度は世界の株式市場にとって大荒れの1年となりました。当年度初めは、中東および北アフリカの政情不安、ユーロ圏債務危機とこれに対する戦略的解決の欠如、多くの新興国市場でのインフレ圧力、米国債務上限をめぐる論争、スタンダード・アンド・プアーズによる米国国債の格下げ、政策に対する不透明感の高まりなど、様々なマクロ経済関連の動向が成長予想を引き下げました。これらの動向が消費者と企業の景況感の重しとなり、特に2011年7月～9月期の株価の下落圧力要因となりました。MSCI EAFEインデックスは▲5.77%の下落で当年度を終えました。

米国の経済指標は、景気の安定化と上昇傾向を示しました。雇用状況の改善、住宅着工件数の回復、一般消費支出の堅調な水準、自動車生産と売上の増加、中小企業設立件数の回復、堅調な製造業、民間セクターの信用拡大の兆しなどが見られました。天然ガス価格の下落も景気回復の一因でした。米国および欧州が追加金融刺激策を実施したことで景気が予想を若干上回ったことにより、当年度の下半期は株式市場が急上昇する結果となりました。

当年度、大型株のインデックスのラッセル1000<sup>®</sup> インデックスは+7.86%、S&P500インデックスは+8.54%上昇しました。当年度、米国大型成長株インデックス(ラッセル1000<sup>®</sup> グロースインデックス)は+11.02%となり、大型割安株インデックス(ラッセル1000<sup>®</sup> バリューストックインデックス、+4.79%)および小型株インデックス(ラッセル2000<sup>®</sup> インデックス、▲0.18%)を上回りました。

2011年4月～6月期、ガソリン価格の上昇と日本の地震の世界サプライチェーンに与えた長引く影響が米国成長の妨げとなり、米国国債利回りは低下しました。また欧州債務危機に対する懸念が、米国国債への需要を一層高めました。6月30日、FRB(米連邦準備制度理事会)はQE2(量的緩和第2弾)としての6000億ドルの米国国債買い入れプログラムを終了しましたが、2.9兆ドルの資産のうち満期償還金で、国債の買い入れを続ける方針を示しました。FRBはまた、フェデラル・ファンド(FF)金利を「長期間」にわたってゼロ近辺に据え置くという表現を繰り返しました。

2011年7月～9月期、FRBは金融市場への介入を続け、米国国債の利回りは低下を続けました。低迷する経済の活性化のため、FRBはツイスト・オペ(ツイスト・オペレーション)を開始し、2012年6月末までに4000億ドルの長期債を購入する意向を示しました。

ツイスト・オペの発表後、2011年10月～12月期には大部分の債券価格は上昇し、世界金融市場では米経済統計の改善と欧州債務危機をめぐる不透明要素などがありました。

2012年1月～3月期、市場がリスク選好傾向になると、米国金利は下落基調から反発に転じました。当年度のパークレイズ米国総合インデックスは+7.71%となりました。

## マザーファンド(アクサ・コンサバティブ・ファンド\*)運用コメント

\*アクサ・コンサバティブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド20」が100%投資しているマザーファンドです。

### マザーファンド(アクサ・コンサバティブ・ファンド)運用コメント

#### <レポートハイライト>

##### 2011年4月1日～2012年3月末日について

2011年度期末時点で、当ファンド資産の約77.97%は米国債券[運用会社はパシフィック・インベストメント・マネジメンツ・カンパニー・エルエルシー]、残る22.03%は米国株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシコ・キャピタル・マネジメンツ・エルエルシー]、大型割安株株式[運用会社はハロー、ハンリー、ミュセヒニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメンツ・エルエルシー]、小型成長株株式[運用会社は2011年5月24日まではイーグル・アセット・マネジメンツ・インク、2011年5月25日からはアライアンス・バーンスタイン・エルピー]がありました。

当年度のファンド年間のリターンは+6.60%、ベンチマークのリターンは+8.13%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに20%、パークレイズ米国総合インデックスに80%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

#### <株式投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ヘルスケアセクターを若干多めに保有したことがパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・資本財・サービスセクター及びヘルスケアセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、情報技術セクターのMotorola Mobility(モトローラ・モビリティ)、Microsoft(マイクロソフト)、LSI Corp(LSIコーポレーション)、資本財・サービスセクターのTyco International(タイコ・インターナショナル)等の銘柄選択がパフォーマンスに貢献しました。
- ・エネルギーセクターのSchlumberger(シュルンベルジェ)、情報技術セクターのOracle(オラクル)を少なめに保有したこともパフォーマンスに貢献しました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・金融セクターを若干オーバーウェイトしたことがパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・情報技術セクター及び素材セクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、エネルギーセクターのPeabody Energy Corp(ピーボディ・エナジー)、素材セクターのUS Steel Corp(ユナイテッド・ステイツ・スチール)、Alcoa Inc(アルコア)及び情報技術セクターのCorning(コーニング)がパフォーマンスの低下要因となりました。
- ・情報技術セクターのApple Inc(アップル)とIntel Corp(インテル)を少なめに保有したこともパフォーマンスの低下要因となりました。

#### <債券投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回った新興国債券を多めに保有したことがプラス材料となりました。
- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債やロング・クレジットより好調だったビルド・アメリカ債を保有したこともプラス材料となりました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・社債市場では、パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を下回った金融セクターに重点的に投資したことが、マイナス材料となりました。
- ・2011年4月～12月期はイールドカーブがフラット化(短期金利と長期金利の差が小さくなること)し、2012年1月～3月期はスティープ化(短期金利と長期金利の差が大きくなること)しましたが、戦術的なポジションを取ったこともマイナス材料となりました。

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレータープラチナ

## 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アキュムレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## マザーファンド(アクサ・モデレート・ファンド\*)運用コメント

\*アクサ・モデレート・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド50」が100%、「アクサ・アロケーションファンド80」が25%投資しているマザーファンドです。

### マザーファンド(アクサ・モデレート・ファンド)運用コメント

#### <ポートフォリオハイライト>

##### 2011年4月1日~2012年3月末日について

2011年度期末時点で、当ファンド資産の約48.55%は債券[運用会社はパシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー]、残る51.45%は米国株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシオ・キャピタル・マネジメント・エルエルシー]、大型割安株式(運用会社はパロー、ハンリー、ミューヒニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー)、小型成長株式[運用会社は2011年5月24日まではイーグル・アセット・マネジメント・インク、2011年5月25日からはアライアンス・バーンスタイン・エルビー]、小型割安株式[運用会社はガムコ・アセット・マネジメント・インク]がありました。当年度のファンド年間のリターンは+5.91%、ベンチマークのリターンは+8.51%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに50%、パークレイズ米国総合インデックスに50%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

#### <株式投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・エネルギーセクターを若干少なめに保有したことがパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・資本財・サービスセクター及び電気通信サービスセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、情報技術セクターのMotorola Mobility(モトローラ・モビリティ)、LSI Corp(LSIコーポレーション)及び資本財・サービスセクターのGoodrich Corp(グッド・リッチ)がパフォーマンスに貢献しました。
- ・エネルギーセクターのSchlumberger(シュルンベルジェ)、情報技術セクターのHewlett-Packard Company(ヒューレット・パカード)を少なめに保有したこともパフォーマンスに貢献しました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・金融セクター及び資本財・サービスセクターを若干多めに保有したことがパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・情報技術セクター及び一般消費財・サービスセクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、エネルギーセクターのHalliburton(ハリバートン)、Peabody Energy(ピーボディ・エナジー)、素材セクターのUS Steel Corp(ユナイテッド・スチール)及びFerro Corp(フェロ)がパフォーマンスの低下要因となりました。
- ・情報技術セクターのApple Inc(アップル)とIntel Corp(インテル)を少なめに保有したこともパフォーマンスの低下要因となりました。

#### <債券投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回った新興国債券を多めに保有したことがプラス材料となりました。
- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債やロング・クレジットより好調だったビルド・アメリカ債を保有したこともプラス材料となりました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・社債市場では、パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を下回った金融セクターに重点的に投資したことが、マイナス材料となりました。
- ・2011年4月~12月期はイールドカーブがフラット化(短期金利と長期金利の差が小さくなること)し、2012年1月~3月期はスティープ化(短期金利と長期金利の差が大きくなること)しましたが、戦術的なポジションを取ったことがマイナス材料となりました。

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレータープラチナ 特別勘定の現況(2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アキュムレータープラチナ(ACCUMULATOR Platinum)積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社で作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## マザーファンド(アクサ・アグレッシブ・ファンド\*)運用コメント

\*アクサ・アグレッシブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド80」が75%投資しているマザーファンドです。

### マザーファンド(アクサ・アグレッシブ・ファンド)運用コメント

#### <ポートフォリオハイライト>

##### 2011年4月1日～2012年3月末日について

2011年度期末時点で、当ファンド資産の約10.19%は債券[運用会社はパシフィック・インベストメント・マネジメンツ・カンパニー・エルエルシー]、75.71%は米国株式、14.10%は国際株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシコ・キャピタル・マネジメンツ・エルエルシー]、大型割安株式[運用会社はパロー、ハンリー、ミュートニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメンツ・エルエルシー]、小型成長株式[運用会社は2011年5月24日まではイーグル・アセット・マネジメンツ・インク、2011年5月25日からはアライアンス・パースタイン・エルピー]、小型割安株式[運用会社はガムコ・アセット・マネジメンツ・インク]、国際株式[運用会社はアライアンス・パースタイン・エルピー]がありました。

当年度のファンド全体のリターンは+2.15%、ベンチマークのリターンは+6.38%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに75%、MSCI EAFEインデックスに15%、バークレイズ米国総合インデックスに10%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

#### <株式投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・一般消費財・サービスセクターを若干多めに保有したことがパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・資本財・サービスセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、情報技術セクターのMotorola Mobility(モトローラ・モビリティ)、一般消費財・サービスセクターのSonesta Int'l Hotels(ソネスタ・インターナショナル・ホテルズ)、及び資本財・サービスセクターのGoodrich Corp(グッド・リッチ)がパフォーマンスに貢献しました。
- ・エネルギーセクターのSchlumberger(シュルンベルジェ)と情報技術セクターのHewlett-Packard Company(ヒューレット・パッカード)を少なめに保有したこともパフォーマンスに貢献しました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・情報技術セクターを若干少なめに保有したことがパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・一般消費財・サービスセクター及び素材セクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・個別株式銘柄では、エネルギーセクターのHalliburton(ハリバートン)、Peabody Energy(ピーボディ・エナジー)、素材セクターのUS Steel Corp(ユニテッド・ステイツ・スチール)、Ferro Corp(フェロ)、及び金融セクターのSoc Generale(ソシエテ・ジェネラル)がパフォーマンスの低下要因となりました。
- ・情報技術セクターのApple Inc(アップル)とIntel Corp(インテル)を少なめに保有したこともパフォーマンスの低下要因となりました。

#### <債券投資ハイライト>

##### 当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を下回った投資適格債を少なめに保有したことがプラス材料となりました。
- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債やロング・クレジットより好調だったビルド・アメリカ債を保有したこともプラス材料となりました。

##### 当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・2011年4月～12月期はイールドカーブがフラット化(短期金利と長期金利の差が小さくなること)し、2012年1月～3月期はスティープ化(短期金利と長期金利の差が大きくなること)しましたが、戦術的なポジションを取ったことがマイナス材料となりました。
- ・パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回った新興国債券を少なめに保有したこともマイナス材料となりました。

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ 特別勘定の現況 (2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他の有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うこととなります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することとなります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## マザーファンド(「アクサ・コンサパティブ・ファンド」\*)のポートフォリオの状況 [2012年3月31日現在(米国)]

\*「アクサ・コンサパティブ・ファンド」は、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド20」が100%投資しているマザーファンドです。

### 資産別の構成比率

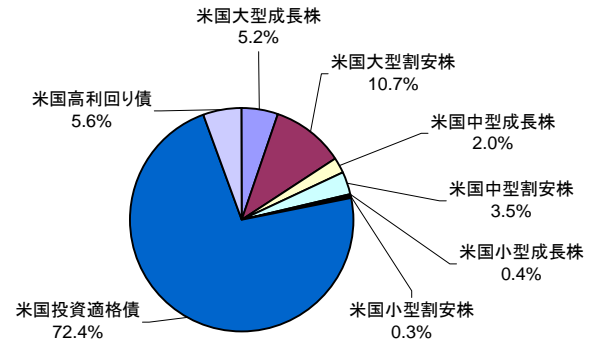
\*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	5.2%	米国株式	22.0%
米国大型割安株	10.7%		
米国中型成長株	2.0%		
米国中型割安株	3.5%		
米国小型成長株	0.4%		
米国小型割安株	0.3%		
米国投資適格債	72.4%	米国債券	78.0%
米国高利回り債	5.6%		

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。

### 組入上位銘柄

(対純資産総額比率)



米国株式等		組入比率	米国債券等		利率	償還日	組入比率
1	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	0.6%	1	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	3.125%	2021年5月15日	8.9%
2	ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	0.6%	2	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.500%	2039年12月1日	8.8%
3	ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	0.5%	3	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.125%	2021年8月15日	4.2%
4	ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	0.5%	4	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.000%	2021年11月15日	3.6%
5	マイクロソフト (Microsoft Corporation)	0.5%	5	米国中期国債 TIPS (U.S. Treasury Note (TIPS))	0.125%	2022年1月15日	3.0%
6	メルク (Merck & Co. Inc.)	0.4%	6	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	0.875%	2017年2月28日	1.8%
7	シティグループ (Citigroup Inc.)	0.4%	7	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.250%	2018年7月31日	1.8%
8	ジョンソン・エンド・ジョンソン (Johnson & Johnson)	0.4%	8	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.000%	2022年2月15日	1.7%
9	メドトロニック (Medtronic, Inc.)	0.4%	9	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.500%	2040年3月1日	1.2%
10	エクソンモービル (Exxon mobil Corporation)	0.3%	10	ブラジル銀行 (Banco do Brasil S.A.)	0.756%	2014年2月14日	1.2%

組入銘柄数: 279

組入銘柄数: 122

### 業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

米国株式	組入比率
1 エネルギー	11.8%
2 資本財	10.7%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	8.8%
4 各種金融	8.1%
5 保険	7.2%
6 ヘルスケア機器・サービス	6.9%
7 食品・飲料・タバコ	5.6%
8 ソフトウェア・サービス	5.6%
9 銀行	4.8%
10 テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.3%

(注)組入比率は株式の資産時価金額合計に対する業種別の資産時価金額の比率をいいます。

(注)TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL: 0120 375 193

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>



# ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ 特別勘定の現況 (2012年3月末)

・アクサ生命保険株式会社の「ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。  
 ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。  
 ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。  
 ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## マザーファンド(「アクサ・モデレート・ファンド」\*)のポートフォリオの状況 [2012年3月31日現在(米国)]

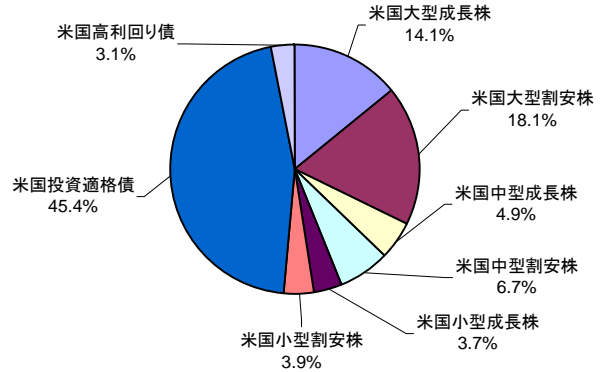
\*アクサ・モデレート・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド50」が100%投資しているマザーファンドです。また、「アクサ・アロケーションファンド80」が25%投資しているマザーファンドです。

### 資産別の構成比率

\*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	14.1%	米国株式	51.4%
米国大型割安株	18.1%		
米国中型成長株	4.9%		
米国中型割安株	6.7%		
米国小型成長株	3.7%		
米国小型割安株	3.9%		
米国投資適格債	45.4%	米国債券	48.6%
米国高利回り債	3.1%		

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。



### 組入上位銘柄

(対純資産総額比率)

米国株式等	組入比率
1 ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	1.0%
2 JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	0.9%
3 ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	0.9%
4 ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	0.8%
5 アップル (Apple, Inc.)	0.8%
6 マイクロソフト (Microsoft Corporation)	0.7%
7 シティグループ (Citigroup Inc.)	0.6%
8 メルク (Merck & Co. Inc.)	0.6%
9 ジョンソン・エンド・ジョンソン (Johnson & Johnson)	0.6%
10 メドトロニック (Medtronic, Inc.)	0.6%

組入銘柄数: 429

米国債券等	利率	償還日	組入比率
1 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	3.125%	2021年5月15日	5.5%
2 ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) TBA (TBA Federal National Mortgage Association)	4.500%	2042年4月25日	4.5%
3 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.000%	2021年11月15日	2.8%
4 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.000%	2022年2月15日	2.7%
5 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2013年1月10日	2.2%
6 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2012年8月9日	2.0%
7 米国中期国債 TIPS (U.S. Treasury Note (TIPS))	0.125%	2022年1月15日	1.8%
8 ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) TBA (TBA Federal National Mortgage Association)	4.000%	2042年4月25日	1.5%
9 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2013年2月7日	1.3%
10 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.125%	2021年8月15日	1.2%

組入銘柄数: 158

### 業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

米国株式	組入比率
1 資本財	11.8%
2 エネルギー	9.8%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.3%
4 ヘルスケア機器・サービス	7.1%
5 各種金融	6.5%
6 ソフトウェア・サービス	6.3%
7 テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.9%
8 食品・飲料・タバコ	5.8%
9 保険	4.4%
10 消費者サービス	4.3%

(注)組入比率は株式の資産時価総額合計に対する業種別の資産時価総額の比率をいいます。

(注)TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社  
 〒108-8020 東京都港区白金1 17 3  
 TEL: 0120 375 193  
 アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# CCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ 特別勘定の現況 (2012年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(最大契約当日積立金額・通増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエグイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」「リファレンスブック」を必ずお読みください。

## マザーファンド(「アクサ・アグレッシブ・ファンド」\*)のポートフォリオの状況 [2012年3月31日現在(米国)]

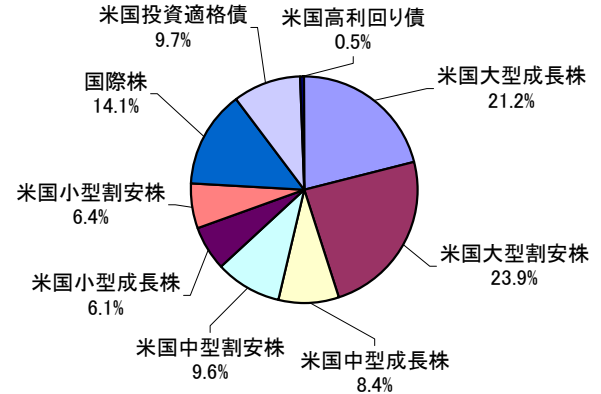
\*アクサ・アグレッシブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド80」が75%投資しているマザーファンドです。

### 資産別の構成比率

\*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	21.2%	米国株式	75.7%
米国大型割安株	23.9%		
米国中型成長株	8.4%		
米国中型割安株	9.6%		
米国小型成長株	6.1%		
米国小型割安株	6.4%		
国際株	14.1%	国際株式	14.1%
米国投資適格債	9.7%	米国債券	9.7%
米国高利回り債	0.5%		0.5%

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。



### 組入上位銘柄

(対純資産総額比率)

米国株式等	組入比率
1 ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	1.4%
2 ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	1.3%
3 アップル (Apple, Inc.)	1.3%
4 JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	1.2%
5 ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	1.2%
6 マイクロソフト (Microsoft Corporation)	1.0%
7 クアルコム (QUALCOMM Inc.)	0.9%
8 オキシデンタル・ペトロリアム・コーポレーション (Occidental Petroleum Corporation)	0.9%
9 シティグループ (Citigroup Inc.)	0.9%
10 ジョンソン・エンド・ジョンソン (Johnson & Johnson)	0.8%

組入銘柄数: 499

米国債券等	利率	償還日	組入比率
1 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	3.125%	2021年5月15日	1.9%
2 ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.000%	2040年11月1日	1.2%
3 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.000%	2021年11月15日	0.6%
4 米国中期国債 TIPS (U.S. Treasury Note (TIPS))	0.125%	2022年1月15日	0.4%
5 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.125%	2021年8月15日	0.4%
6 米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	0.875%	2017年2月28日	0.4%
7 大韓民国 (Republic of Korea)	7.125%	2019年4月16日	0.3%
8 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2012年8月2日	0.2%
9 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2012年8月23日	0.2%
10 米国短期国債 (U.S. Treasury Bill)	0.000%	2012年8月30日	0.2%

組入銘柄数: 51

### 業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

(注) TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたものは指定せずに行う先渡取引形態です。

米国株式	組入比率
1 資本財	11.2%
2 エネルギー	9.9%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.2%
4 ヘルスケア機器・サービス	6.6%
5 食品・飲料・タバコ	6.1%
6 ソフトウェア・サービス	6.1%
7 各種金融	5.8%
8 テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.3%
9 銀行	4.6%
10 素材	4.5%

(注)組入比率は株式の資産時価金額合計に対する業種別の資産時価金額の比率をいいます。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL: 0120 375 193

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ のリスク及び諸費用について

## 【投資リスクについて】

- ・この保険は、積立金額および年金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの米ドル建の変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して主に米国株式・米国債券などで行なっており、株式および公社債の価格変動に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、年金額や払いもどし金額などのお受け取りになる金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。
- ・このリスクはご契約者に帰属します。

## 【為替リスクについて】

- ・この保険は米ドル建です。外国為替相場の変動による影響を受けます。年金や給付金などのお受取時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額が、ご契約時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額を下回ることがあります。
- ・お受取時における外国為替相場によって円に換算した年金受取総額などが、お払込み時における外国為替相場によって円に換算した一時払保険料相当額を下回ることがあります。
- ・このリスクは、ご契約者および受取人に帰属します。

## 【諸費用について】

- この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

■年金支払開始日前(終身死亡保障特則適用の場合は、適用日以後もご負担いただきます。)

●ユニット数に反映される費用(ユニットプライス計算後、費用の控除によりユニット数が減少します。)

項目		費用	ご負担いただく時期																						
保険契約管理費 (*①)	70歳以下	アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.91% アクサ・アロケーションファンド50 年率 2.73% アクサ・アロケーションファンド80 年率 4.74% <hr/> 積立金最低保証特約が消滅した場合または積立金額(保険契約管理費控除前)が直後に到来する積立金最低保証日における積立金最低保証額の2倍を超える場合 アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.74% アクサ・アロケーションファンド50 年率 1.70% アクサ・アロケーションファンド80 年率 2.11%	毎日、積立金額から控除します。(ユニット数に反映します。)																						
	71歳以上	アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.83% アクサ・アロケーションファンド50 年率 2.62% アクサ・アロケーションファンド80 年率 4.01%																							
運用関係費 (*②)	特別勘定の運用などに必要な費用で、特別勘定が投資対象とする投資信託の管理報酬等が含まれます。	アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.4%以内 管理報酬等は、投資信託の純資産額に対して、年率1.4%以内となります。 (*③) アクサ・アロケーションファンド50 年率 1.5%以内 管理報酬等は、投資信託の純資産額に対して、年率1.5%以内となります。 (*③) アクサ・アロケーションファンド80 年率 1.6%以内 管理報酬等は、投資信託の純資産額に対して、年率1.6%以内となります。 (*③)	特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。(ユニットプライスに反映します。)																						
解約控除	払いもどし金のお支払いにおける控除	解約計算基準日における積立金額に解約日までの経過年数(1年未満切上げ)に応じた解約控除率を乗じた金額 <table border="1"> <tr> <td>契約年数</td> <td>1年目</td> <td>2年目</td> <td>3年目</td> <td>4年目</td> <td>5年目</td> <td>6年目</td> <td>7年目</td> <td>8年目</td> <td>9年目</td> <td>10年目~</td> </tr> <tr> <td>解約控除率</td> <td>9%</td> <td>8%</td> <td>7%</td> <td>6%</td> <td>5%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </table> ※無償引出限度額(解約日の属する保険年度の初日における積立金額(*④)の10%)と同額までの積立金額については、解約控除は適用されません。 *④解約日が契約日から1年以内の場合は一時払保険料とします。	契約年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目~	解約控除率	9%	8%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%	解約時に、積立金額から控除します。
契約年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目~															
解約控除率	9%	8%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%															

(\*①)(積立金移転時の保険契約管理費のお取扱い)

積立金の移転が行なわれた場合の移転後の保険契約管理費は、移転前後の保険契約管理費のうちいずれか高い方を適用します。

<契約年齢(保険年齢)70歳までの方の場合>

(例1)●アクサ・アロケーションファンド20からアクサ・アロケーションファンド80に移転

→年率1.91%から年率4.74%に変更となります。

(例2)●アクサ・アロケーションファンド80からアクサ・アロケーションファンド20に移転

→年率4.74%のまま変更されません。

(\*②)運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動などの理由により将来変更となる可能性があります。

# ACCUMULATOR Platinum アキュムレーター プラチナ のリスク及び諸費用について

- (※③)管理報酬等は、運用会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社への報酬・費用、その他の費用(監査法人報酬など)で、各マザーファンドにおいて控除されます。  
その他お客さまにご負担いただく費用には、有価証券の売買手数料および保有する有価証券の配当などに対する源泉徴収税などの諸費用がありますが、運用資産額や取引量などによって変動するため費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## ■年金支払開始日以後(「年金払特約」による年金も含まれます。)

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金支払額の1.0% ※将来変更となる可能性があります。	年金支払日に、責任準備金から控除します。

※年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

## 【年金や死亡給付金などを円通貨でお受け取りいただく場合(「円支払特約」を適用する場合)】

○円支払特約の適用により年金や死亡給付金などを円でお受け取りになる場合、円に換算する日(換算基準日)のTTMレート-40銭の為替手数料がかかります。

換算基準日は、年金の場合は、年金支払日、死亡給付金額などの場合は、アクサ生命が所定の必要書類を受付けた日の翌営業日となります。

※TTMレートは、各換算基準日において所定の金融機関が公示する対顧客電信売買相場仲値(1日のうちに公示値の変更があった場合は、その日の最初の公示値)となります。

※為替手数料は、将来変更となる可能性があります。

## 【年金や死亡給付金などを米ドル通貨でお受け取りいただく場合】

○アクサ生命からの送金にかかる手数料は、お客さま(受取人)に負担していただきます。なお、金額については、送金する金額や金融機関によって異なるため、表示できません。

※円支払特約を適用し、年金などを円でお受け取りいただく場合には、アクサ生命からの送金にかかる手数料は、アクサ生命が負担します。

## 【その他留意事項について】

### ■積立金額最低保証

積立金額最低保証は、契約日から10年、15年、20年、25年、30年経過時に限られます。それ以外の時点で年金受取を開始する場合や、運用期間中にご契約を解約される場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。

また、積立金額最低保証は契約日から30年経過時(ただしその日が、被保険者の契約年齢が90歳に達する年単位の契約応当日以降となる場合は、その契約応当日の直前の積立最低保証日)に消滅します。